道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

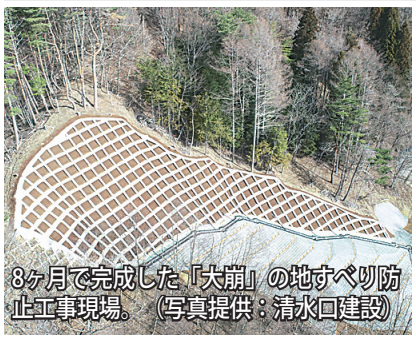
4月もスノボ。白馬47の斜度28度もクリア♪

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～http://www.fairytale.jp/～

松本もようやく桜の開花宣言となりました。標高が高い我が家に今咲いているのは、愛らしい黄色い花のサンシュユの木のみ。先日も雪が降り、まだまだ三寒四温が続いています。待てば必ず訪れる春ですが、ウクライナにはいつ来るのだろうと、何をしていても気になります（胸が押しつぶされそう）。そして、国際社会が経済で繋がっている現在、普通の幸せを淡々と送ることの難しさは、地球規模の課題となってきました。私たちの生活にも物価の高騰という形で打撃がやってきますが、今はまだ序の口とか。スノーボード通いがツーリングに置き換わる時期になりましたが、とりあえず節約・効率化など出来ることからやっていかなくては…。ガンバだ。

さて、まずは嬉しいニュースから。昨年9月号で触れた裏山の「地すべり防止施設災害復旧事業」が無事終了したのですが、大型の工事車両が通らなくなったタイミングで、壊れた生活道路を補修してくださったのです。施工会社の現場主任の方が挨拶に来てくださったのですが、地元で親しい人の関係者で我がカフェにもいらしたことがあり、一気に親近感。現場の「大崩」の説明も赴いてしてくださるということだったのですが、生憎の雪で延期に。そして、私の懸念だった工事車両通過で傷んだ舗装林道（市道）ですが、予算の関係で補修工事は年度を越すことになったそうです。車の通行量が極端に少ないのでずっと後回しなのかと思ったら、そうではなかったことに一安心。他の災害地に比べる状況はずっとマシなので、大人しく待ちます～。それにしても、工事現場の着工前後の写真を見せてもらうまで、実はすでに施工されていた防止施設があり、それが壊れたのだとは知りませんでした。我が家とは反対側の峠にあるのですが、大きく崩れたら、集落とその先にある国道254号線まで流れ出てしまうような位置なので、本当に完成してよかったです。

続く嬉しいニュースは、一回の走行が百キロ超えの場合、バイクのETC料金が「定率割引」になったこと。NEXCO3社によると、この4月2日から11月27日までの限定、かつ土日祝日に限られるし申し込みと制とのことですが、またライダーの夢（全線減額）に大きく近づきました。3年振りに開催された第49回東京モーターサイクルショーも来場者12万人超えの大盛況でなんだか嬉しいです（大阪は3万3千人超え）♪ 新世代と呼ばれる若者の姿が多かったとみなさん驚いていましたが、信州でカフェを営んでいても、その風は感じられます。まさにコロナ禍で急増したバイク免許保持者が、昨年あたりから年代に関係なく増え、新車はもちろん中古バイクも数が足りなくて連日のように情報が飛び交っています。意外にも若い世代は親から譲り受けた旧車（マニアは飛びつきそう）やたまたま手に入れたバイクで腕慣らしというのが多いですが、熱い世代は壮年層で、達は淡々と乗る爽やかな系が多いような気がします。速さよりしなやかさ。本当に見ているだけで気持ちがよいのです。カフェの常連さんは40代～60代が中心ですが、その子供たちが乗り始めたので、ここ最近はかなりの数の親子ライダーがやって来るようになりました。家族に一人も運転免許保持者がいなかった私とは違い、幼い頃から両親の姿を見ていた世代は、初めて公道に出たとは思えない心構えと技術があり、羨ましいと同時に拍手。本当の安全は、見守られている安心感からなのかもしれませんね。さあ、そろそろバイクシーズン。まずはETC割引のための「速旅（はやたび）」に会員登録してみました♪


8ヶ月で完成した「大崩」の地すべり防止工事現場。（写真提供：清水口建設）

雪の中、家の前の道を補修工事。打ち合わせする現場代理人の一之瀬さんと施工業者。

ニコニコ顔の常連さん、友達と来たのかと思ったら息子さん（手前）と。

初乗り嬉しい！憧れのニューヘルメットが嬉しい！みんな笑顔だっ♪

3世代家族５人でライダーの向山家。免許取得後初乗りの長女（左）は、母のバイクで。

カフェで知り会ったカワサキ党女子。50歳と20歳で親娘みたい。

安曇野市の黒木さん親子。父は1300cc、息子は900ccで。

九州の散歩道

懐かしく温かい「昭和の町」

フリージャーナリスト　湯浅玲子

大分県豊後高田市には、昭和30年代の町並みを再現した「昭和の町」があります。現在では映画やドラマの撮影場所として利用されることも多く、たくさんの人が訪れる人気観光スポットですが、以前は寂れた商店街があるだけでした。

豊後高田市の中心商店街は、江戸時代から明治、大正、昭和にかけて国東半島で最も栄えた町でした。海上運輸が盛んで、昭和初期まで多数の運搬船が停泊していたといいます。ところが、時代とともに地域の過疎化が進み、郊外に大型店が進出したこともあって商店街は衰退し、「犬と猫しか歩かない」とまで言われるほどになりました。

そうした中で始まった町おこしの取り組みが「昭和の町」です。時代の波から取り残され、昭和30年代以前の建物がたくさん残っていたことを逆手にとり、活気があった時代の街並みを再現しようというものでした。平成13（２００１）年に7店舗が昭和30年代をイメージした外観に戻したことからスタートし、今では昭和の町認定店は50店以上に増えています。それぞれの店には歴史を物語る昭和のお宝が展示され、昔から続く店自慢の逸品が売られ、店先には笑顔でもてなす昭和の商人がいます。ぶらぶら歩きが楽しい、生きている昭和の商店街なのです。

大分県きっての豪商だった野村家が米蔵として建てた倉庫（昭和10年頃築）を改造した「昭和ロマン蔵」もあります。オート三輪「ミゼット」をはじめとする自動車、木製の机や黒板のある教室、レトロな雰囲気の当時の電化製品、さらには駄菓子やおもちゃの博物館もあり、まさに昭和のテーマパークといったところ。

また週末には、昔懐かしいボンネットバスが無料で運行しています。このバスに乗って町並みをめぐれば、昭和30年代へのタイムスリップ感覚を味わえます。バスツアーのない日も展示されたボンネットバスの車内に入って記念撮影が可能です。

最近になって仲間入りしたのが、独創的なデジタルコンテンツを制作するチームラボの作品。「昭和ロマン蔵」の敷地内にある「チームラボギャラリー昭和の町」では、豊後高田市に伝わる盆踊りを題材にした作品があり、自分が描いた絵がアニメーションになってスクリーンに登場します。昔懐かしい昭和の商店街から最先端のデジタルアートまで、「昭和の町」は子どもから大人まで楽しめる場所なのです。

「昭和の町」が誕生して20年。これからも長く愛される場所であるために、時代の流れとともに少しずつ進化を続けています。

（写真提供・大分県）

商店街を行く昔懐かしいボンネットバス

レトロ感にあふれた「昭和ロマン蔵」館内

ハッと思いました

今年も桜の花が綺麗に咲きました。誰が手入れをしているのかは知りませんが、誰かが手入れをしているはずです。途切れることなく毎年綺麗な花をアリガトウ。

先日、幹線道路沿いのしっかりと整備された歩道を歩いていた時の事です。車道から大きな音が聞こえてきました。改造車の排気音でもなく、爆音ミュージックでもなく、？話し声？が大音量で・・。

そちらに目をやると、音の出元はノーマルの乗用車でした。クルマには運転席に見るからに高齢者とわかるドライバーが一人だけ。ラジオから大音量でパーソナリティーがおしゃべりしている声流れていました。

あの車内にいたら・・うるさくて・・発狂するかもなどと思いつつ、事故が起きませんようにと祈ってしまいました。

高齢者だからと言うわけではなく、全てのドライバーは、免許を取得したら、それで運転技能は一〇〇％OKじゃないと思います。毎年毎年いや、毎日毎日いやいや、毎分毎分、自分の体調や精神状態に気を配り、注意しなければならないと思うのです。それが便利な凶器を公の場で使用する際の責任じゃないですか。

最近は機械に頼り過ぎて、人に甘々なんじゃないですかね。踏切りでは一旦停止して、さらに窓を開けて、音を聞いて安全確認を。と教わった皆さん、そう思いませんか？

まったく話は変わりますが、ウクライナ侵攻を進めるロシアでは「Zキャンペーン」なるものが流行っています。的外れなのかもしれませんが、間もなく新型が登場する、我が憧れのクルマ「フェアレディZ」の名に影響しなければいいなあなんてちょっと心配。